

# 邦画新報

創刊特別号

2020年  
5月13日  
水曜日

発行 無名社編集室  
〒117-4126  
東京都東港区一満寺871  
電話 03-714-0092

この配布物は無名社が暗躍の末、血と汗と涙の結晶として作られたものです。無断転載は禁止します。掟を破ると無名社断則により天誅(股裂き、地獄車、脳天唐竹割り、地獄突き、蠟固め、岩石落とし、原爆固め、人間風車、脳天杭打ち、月面水爆、丑固めなど好きなものを選択可)が下される恐れがあります。

## デビュー時は「多鶴恵」

昨晩、会社員の横須賀さんが録り溜めていた往年のテレビドラマ「傷だらけの天使」第七話「自動車泥棒にラブソングを」の鑑賞中、一九五〇年代から一九六〇年代にかけて東宝専属だった女優・一万慈鶴恵(いちまんじつるえ)さんが田圃の世話をする農婦役として出演していることに気がついた。台詞はないが、アップで満面の笑顔を見せてくれる(本ページ左下の写真)。始めはまさかテレビドラマで一万慈さんの顔を見かけるとは信じられなかったが、何度も出演シーンを見直していくうちに一万慈さんに間違いないと確信を持つようになったと横須賀さんは語る。

万慈鶴恵さんについて紹介したいのだが、生年月日、出身地などの個人情報、来歴は一切公開されていない。一万慈さんの出演作品の歴史をたどるため、東宝公式ウェブサイトの東宝資料室(注1)の情報をみると「デビュー作は「また逢う日まで」(一九五〇年三月公開)となつている。東宝公式サイトに掲載されているのでおそらくキャストとしてクレジットされていたと思われる。横須賀さんも筆者も未見の作品なので正確なところは不明のままだ。東宝資料室のキャスト表では「一万慈多鶴恵」となっていることに注目したい。その当時「多鶴恵」と名乗っていたのだ。

大部屋俳優のひとりなので「また逢う日まで」より過去の作品でも目撃情報が寄せられている(ノンクレジット出演)。それより古い作品では、一九四九年十月公開の「野良犬」(製作:新東宝ほか)のドヤのおぼさん役との報告がある。一万慈ウオッチャーとして活躍しておられる即席映画狂さん(注2)、横須賀さん、筆者も確認しているのがこれが最古の一万慈さん出演作品と言ってもいいだろう。一万慈さんは、巨匠黒澤明監督作の「生きる」(クレジットなし)や「七人の侍」(クレジットあり)、本多猪四郎監督の「ゴジラ」(クレジットなし)にも顔を見せる程の実力の持ち主。一九六一年七月公開の「モスラ」ではクレジットはされたものの、本編に出演箇所なしという珍しい体験もしている。

東宝資料室に掲載されている一九五五年七月公開の「むっつり右門捕物帖 鬼面屋敷」のキャスト表から「一万慈鶴恵」となっていることがわかる。デビューから五、六年で改名したが、その理由も一切は不明のまま今日にいたる。そして、一九六五年一月公開の「社長忍法帖」を最後に一万慈鶴恵さんの名前は東宝資料室から消えてしまふのだ。しかし、即席映画狂さん、横須賀さん、筆者などはそれ以降の作品でも一万慈さんを見かけている。最後に見かけたのは、一九七一年八月公開の「激動の昭和史 沖縄決戦」。役柄は比喜三平(田中邦衛)の母親役だった。

**お詫び**  
Web 公開版では著作権のため、写真表示できません。  
本来であれば、この枠内には農婦姿の一万慈さんの笑顔のアップが表示されています  
満面の笑みを浮かべる一万慈さん

# 木浦スミ江とは何者？

さて、「傷だらけの天使」第七話「自動車泥棒にラブソングを」で一萬慈さんを発見した横須賀さんは、念のためオープニングのキャストを再確認する。やはり「一萬慈鶴恵」の名前は見当たらない。第七話でクレジットされている女優は「岸田今日子」、「ホーン・ユキ」、「川口晶」、「木浦スミ江」の四名だけだと気づく。前三名の女優さんは有名な方で、顔は十分判断できる。最後の一人「木浦スミ江」なる女優さんだけはどんな顔なのかわからないので想像するしかない。第七話をもう一度見直してみるが「木浦スミ江」とキャスト

**お詫び**  
Web 公開版では著作権のため、写真は表示できません。  
本来であれば、この枠内には「木浦スミ江」とクレジットされているシーンが表示されています

『傷だらけの天使』第7話のクレジット

にクレジットされるような役柄の女性は農婦役の女優（明らかに顔は一萬慈さん）位しか見当たらない。このことにより、「一萬慈鶴恵」＝「木浦スミ江」ではないだろうかと疑問を抱き始めた。横須賀さんは語る。他人の空似でない限り「一萬慈鶴恵」と「木浦スミ江」は同一人物ではないだろうか、との思いが日に日に強くなる横須賀さん。「二回目の改名」疑惑の発端である。その後、一萬慈鶴恵さん出演作品のキャスト表を見直しているうち、「激動の昭和史 沖縄決戦」で木浦スミ江の名前を発見することにつながった。発見が今日になったのは、映画本編のクレジットに「一萬慈鶴恵」の名前がないのでノンクレジット出演だろうと思いついていたためキャスト表をよく見なかつたからである。ウェブで公開されている「激動の昭和史 沖縄決戦」のキャスト表を確認すると表1のように記載されている。映画分野では代表的なサイト、allcinema（注3）と日本映画データベース（注4）を参照してみた。

俳優名の表記が「スミ江」、「すみ江」と異なるのは、ウェブサイト転載時のミスだろうと思われる。東宝が公開している専属俳優一覧（注5）の一九六五年八月の項目に「木浦スミ江」の名前を見つけられるので正式な表記は「木浦スミ江」だろう。苗字の正しい読み方ははっきりしない。この専属俳優一覧では、一萬慈鶴恵と木浦スミ江の名前が同時期に記載されていない。共存期間がないこともわかる。東宝資料室で「木浦スミ

俳優名	役名	掲載ウェブサイト
木浦スミ江	老婆	東宝資料室
木浦すみ江	比喜三平の老婆	Allcinema 日本映画データベース

表1 「激動の昭和史 沖縄決戦」のキャスト

薬から作った栄養ドリンク  
飲んで発症カサリ  
薬エキス（ワライタク酸）含有率2倍！  
フラチオール  
ワライタク酸の結晶品  
Wara ale  
医薬部外品  
発売 わらしべ本舗

江」出演作品を探すと「颱風とざくろ」（一九六七年九月公開）がヒットする。即席映画狂さんの証言では「颱風とざくろ」で一萬慈鶴恵さんを目撃したと語っており「一萬慈鶴恵＝木浦スミ江」説を補強する材料のひとつにあげられる。「傷だらけの天使」は、東宝が制作しているため一萬慈さんが出演していたと思

## 無念！ 決定打なし

一萬慈さんは、過去にも隠し子疑惑（注6）が発覚して問題となったこともあり、何かと話題の絶えない女優さんだったようだ。これだけ世間を賑わしたにも関わらず、東宝入社に至るまでの経緯および退社後の消息は一切不明となっている。謎の多い女優さんで、かつ当時の様子を知っている人々も鬼籍に入られている人が多く確信に迫る証言は得られていない。今まで述べてきたように状況証拠は多数出揃ってきしたが、決定打が見つからなかったのは事実。疑惑のままで終わってしまうのは大変残念なことである。撮影台本、当事者の証言などの新たな証拠発見を期待したいところである。（安居上夫）

われる。東宝が制作に加わったテレビドラマは何本も存在するので一萬慈さんが出演している作品がこれから見つかるとは考えられない。念のため、テレビドラマ関連のウェブサイトで「木浦スミ江」の名前を検索してみたがヒットするものは「傷だらけの天使」だけだった。

### 参考サイトなど

- 注1 東宝資料室 <https://www.toho.co.jp/library/>
- 注2 即席映画狂さん 日夜、名画座で旧作邦画を見続けていたという。プロ級の「一萬慈ヤイ（イチマンジヤイ）」 <http://yukiyanaqi.sakura.ne.jp/~ineichimanji.html>
- 注3 allcinema <https://www.allcinema.net/>
- 注4 日本映画データベース <http://www.jmdb.ne.jp/>
- 注5 東宝専属俳優一覧 [https://www.toho.co.jp/files/pdf/movie\\_actor\\_list.pdf](https://www.toho.co.jp/files/pdf/movie_actor_list.pdf)
- 注6 「隠し子発覚」事件 東宝の専属俳優・三浦敏男さんが一萬慈鶴恵さんの息子だったという事件。ウェブ上で有名なウイキペディアがトップ抜いたことで世間に知られるようになった。